

二〇一四年度

A

国語 (1)

[注意] 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

一 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

拝啓 梅雨の季節となりましたが、お元気にお過ごしのことと思います。

今日は、わたしのなくしたおさいふを、交番にとどけてくださり、ありがとうございます。

大切にしていたもので、とても困っていました。

見つけたときは、本当にうれしかったです。

ご親切に感謝いたします。

まずは、お礼まで。

六月二十三日

敬具

小川花音

滝口なずな様

(中略)

この長い坂道沿いには、図書館や児童館、音楽堂やスポーツセンターなどの文化施設が集まっている。町の中でも、特に人通りの多い道なのだが、

「あつ、見て見て」

七海が、先を行く人の群れを指さして、おどろいた声をあげた。

「あれって、うちのクラスの『ミスターじいさん』じゃない？」

確かに、大野節だ。背も高く、スマートなのに、猫背のせいで、くたびれた感じをただよわせている。髪の毛はボサボサ、服はしわだらけ。ズボンのポケットに手をつこみ、本物のおじいさんのように、ゆっくりゆっくり、坂をのぼっていく。

「やだ、あいつもプール？」

七海が顔をしかめると、紗彩も不機嫌になり、

「あいつが行くんだったら、児童館に変えよう。同じ空気すうの、学校だけでたくさん」

とまでいった。

花音は（そこまで嫌わなくてもいいのに）と思ったが、

「う……ん」

心とは逆な言葉が、勝手に口からもれていた。ここであなずかなかったら、仲間はずれにされそうだし、節を変だと思ふ気持ち、花音の中にも少しはあるせいだろう。

みんなとちがうこと、変と思われることは、花音たちにとって一番警戒しなくてはならないことなのだ。

①三人は、節に気づかれないように注意深く、その猫背を追いかけつづいていき、そうしているうち、スポーツセンターの前までたどりついていった。節のほうは、坂のもっと先へとぼつていく。

②節の姿が消えたとき、七海が、

「ふー。これで安心して、プール、楽しめる！」

おおげさに息をはいたので、紗彩が大笑いし、花音もぎこちないつくり笑いをうかべてみせた。

花音様

暑中お見舞いの葉書を、ありがとうございます。

熱帯魚の絵、とても上手ですね。プールで遊ぶ、

夏の妖精のようなあなたを想像しています。

夏は、庭の草花がいきいきして、ホースで水をまくと

きに、虹が見えることもあります。見とれるほど、きれ

いですよ。

身体に気をつけて、良い夏を送ってくださいね。

七月十日

滝口なずな

今日のお便りは、和紙に青い朝顔の版画がついた、すずしげな葉書だった。緑の草、透明白い水、七色の虹が、頭の中にパッと広がり、③さわやかな風を受けとった気がして、花音は口ぐせの「暑い！」をしばらく忘れることができた。

明日から、いよいよ夏休み。クラスの誰かがうかれ、教室は朝からガヤガヤ、大さわぎ。窓からさしこむ強い光をはねかえすくらい、みんなの顔が明るく輝いている。

「静かに！ 静かに！ これから、宿題を配りますよ」

予定表や日記帳、算数と国語のワークブックなどが配られるたび、教室はいつそう、さわがしくなる。

「こんなに宿題、あるの？」

「夏休みくらい、遊ばせてくれ！」

それなのに先生は、すました顔で、

④「夏の課題は、もうひとつ」

さらに、みんなを刺激するようにいった。

「この間の道徳で、暑中見舞いについて学んだでしょ？」

習うだけじゃなく、実行しなくちゃ意味がないわ。この夏は、ぜひとも、先生あてに葉書を書いてほしいの」

とたんに、えーっ！ という不満げな声が爆発した。先

生はそんな声など聞かえないふりをして、暑中見舞い用の葉書を一枚ずつ、配り始める。

男子たちが、

「手紙、あきた」

「書くことないよなあ」

文句をいうと、女子たちも負けずに、

「メールじゃダメですか？」

「出すの忘れちゃいそう」

男子といっしょになって、反対する。先生は、

「静かに！」

と、手をたたき、

「手紙は、社会生活の大事なマナーです」

今度はおこった顔つきになった。さわぎをおさめるための芝居じゃなく、本気でイラだっているのがわかったので、さすがに教室がしずまり、気まづい空気が流れた。

⑤そのときだ、またもや大野節が、席から立ちあがったのは。

二〇一四年度

A

国語 (2)

〔注意〕 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

「先生に季節の手紙を出すのは、昔なら、当たり前のことだよ」

節は、みんなをぐるりと見まわし、言葉を続けた。

「夏休みは長いんだ。そのくらいの時間は、とれるはずだろう？」

「昔って、いつさ？」

誰かが、ちやかす。

「百年前？ それとも、一億年前？」

別の誰かが、

「出たー！ “ミスターじいさん”の昭和発言！」

⑥時代おくれをからかうと、教室中がドツとわきかえった。みんなの緊張がいきよにとけて、また活気もどつてきたのだから、ここで節がだまつてすわれば、なにごともなくホームルームが終わるはずだった。

なのに、今日の節ときたら、

「手紙なら、いつもはいえない『ありがとう』が書けるんだ！」

少しも引きさがろうとしない。みんなを敵にまわしてまで、手紙バトルをくり広げる気配だ。

「手紙って、自分の字で書くから、自分の思っていることが、ちゃんと伝わるんだ。もらったほうも、メールみたいにかんたんに消せないし、くりかえし読めるから、相手の気持ちがちんと読みとれる。うれしい手紙だったら、捨てない限り、何度でもそのうれしい気持ちを味わえる。手紙って、すごいじゃないか！」

節の席は花音のななめ前なので、節の腕や足が、かすかにふるえているのに気がついた。おこっているのか、興奮しているのか……、どっちにしても、かなり気を張りつめているのが、花音にも見てとれた。

「ぼくたち、もう五年なんだし、先生がいうように、社会のマナーをおぼえていかなきゃ。手紙って、不思議なんだよ。どんなに親しい人にあてても、ていねいな言葉で書いてしまう。少し大人になった気分になれる」

聞いているうち、花音は無意識にうなずいていた。

（大野君は、いつときの感情でいいはっているんじゃない。みんなに負けるのがくやしからって、引きずっているのでもない。）

大野君は⑦本当にみんなに伝えたいことがあって、それを一生懸命、伝えるためにがんばっているんだ——

花音にはだんだん、そう思えてきた。

教壇の先生も、節の言葉に何度もうなずいていたが、クラスメートと節のいい争いがなかなか終わらずともないので、今はちよつぱり困ったように、時計を見あげている。

クラスでも乱暴なところのある吉田君が、

「なんだよ、先生の味方ばっかして」

かみつく勢いで、節のそばに進みでると、

「おまえ、ほんとに子どもなのかよ。年、ごまかしてるだろ？ ほんとに、じいさんだろ？」

節の肩を、軽くたたいた。無表情だった節の顔が、見る見る赤くそまり、手のふるえが激しくなった。今にも、ケ

ン力が始まりそう——。

男子たちは、おもしろがって、

「やっちゃえ、やっちゃえ」

と、けしかける。

先生は、あわてて立ちあがり、吉田君の前に割りこむと、「終わり、終わり！ もう時間だから！ 席にもどって！」ようやく、さわぎをおさめて、ホームルームを再開した。うしろの席の紗彩が、うんざりした様子で、

「いつつ、あいつが事件の元だね」

花音の耳もとでささやく。

「手紙のことくらいで、ムキになっちゃって、バツカみた」

「うん……」

「時間のムダだよ。せつかくの夏休みだっていうのに」

でも、本当のところ花音には、節のいったことは全部、自分の思いと重なっていると感じられた。

（手紙って、いいところがいっぱいあるのよ）

電話とちがい、手紙は自分の気持ちをよくまとめてから、きちんとあらわすことができる。ペンの色や選んだ便せん、自分らしさを伝えられる。封筒なら、小さな贈り物をそえることもできる。

（手紙って、ほんとに心をこめられるの）

⑧なにより、三分のうちに返信する“なんていう、速さを求めるルールがないのがうれしい。

（それに……）

返事をもらったときの喜びといたら！

なずなさんからの手紙を思いうかべ、いつしゅん、うつとりした花音だが、

（じゃあ、なぜ今、大野君に賛成してあげられなかったの？）

⑨ななめ前の猫背が、花音を無言で“いくじなし”と責めているようで、花音は思わず目をふせていた。

紗彩は毎年、夏を田舎ですごすらしく、夏休みに入ったとたん、パソコンへの短いメールもとだえてしまった。塾があるといっていた七海のほうは、

「でも、夕方からだから、ヒマなんだ」

ときどき約束もなく、ふらりと花音の家へ遊びに来る。

今日も、これから児童館へ行こう、と誘われた。

「七海は、妹がいるから、いつしよに遊べるじゃない？」

「チビとじゃ、つまんない。毎日、おままごとの相手、やらされてるんだよ」

七海は、半分本気、半分冗談っぽく、ふくれつづらをしてみせた。花音は急いで支度をすませ、二人で外へ出た。

湯気がのぼりそうなほど熱した坂道を、肩をならべて歩き、

「暑い、暑い」

を、二人してくりかえす。坂の途中、

「ちよつと待ってて」

ポストによつた花音を見て、

「宿題、もうやったの？ 葉書じゃなくていいの？」

七海が、あせつて聞いてきた。先生への暑中見舞いかと

二〇一四年度

A

国語 (3)

[注意] 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

思ったらしい。

「ちがう、ちがう。ちょっと知り合いにね」

「誰よ？」

「ないしょ」

「ずるーい」

ポストに入れたのは、先週、ママとなり町へ買いに行
った、空色の封筒だ。ファンシーショップで初めて見たと
きから、ほしかったレターセットを、やっと手に入れた。
表書きには、「なずなさん」の名前。暑中見舞いの返事
をもらってから、まだ何日もたっていないけれど、花音は
どうしても、なずなさんに聞いてもらいたいことがあって、
また手紙を書いてしまった。

それは、この間のクラスで起きた「手紙騒動」について。

節と同じ考えだったのに、節を応援できなかった自分を、
今も悔やんでいて……。

⑩クラスで花音は、直接、節をからかったことなど一度

(田村理江『ひみつの花便り』)

問1 傍線①「三人は、節に気づかれないように注意深く、その猫背を追いかけていき」とあるが、ここで節を追いかけては、
ではなく、「その猫背」を追いかけてと表現していることからどのようなことがわかるか、説明しなさい。

問2 傍線②「節の姿が消えたとき、七海が、『ふー。これで安心して、プール、楽しめる！』とおおげさに息をはいたので、
紗彩が大笑いし、花音もぎこちないつくり笑いをうかべてみせた」とある。三人はそれぞれの反応を見せているが、
なぜそのような反応をしたのか、その理由が書いてある部分を抜き出しなさい。

問3 傍線③「さわやかな風を受けとった気がして」とあるが、花音がこのように感じたのはなぜか。「夏は、庭の草花がい
きいきとして、ホースで水をまくときに、虹が見えることもあります。見とれるほど、きれいですよ」という文の他に
考えられる理由を説明しなさい。

問4 傍線④「『夏の課題は、もうひとつ』さらに、みんなを刺激するようにいった」とあるが、先生のこの様子からどのよ
うなことがわかるか、説明しなさい。

問5 傍線⑤「そのときだ、またもや大野節が、席から立ちあがったのは」について、次の問いに答えなさい。
A 「またもや大野節が」と書いてあることからどんなことがわかるか、説明しなさい。
B 文の順序が反対になっていることで、どんなことが強調されているか、説明しなさい。

問6 傍線⑥「時代おくれをからかう」とあるが、クラスの「誰か」はなぜこんなからかいをしたのか、説明しなさい。

問7 傍線⑦「本当にみんなに伝えたいこと」とあるが、具体的にはどういうことか、説明しなさい。

問8 傍線⑧で、「三分のうちに返信する」なんていう、速さを求めるルールがない」ことを花音はなぜ「うれしい」と言
っているのか、説明しなさい。

問9 傍線⑨「ななめ前の猫背が、花音を無言で」と書いてあるように、花音は思わず目をふせていた」とある
が、なぜ節の姿を「ななめ前の猫背」と表現しているのかに触れつつ、この時の花音の気持ちを説明しなさい。

問10 傍線⑩「クラスで花音は、直接、節をからかったことなど一度もないが、節の味方になれないというのは、からかうの
と同じなのかもしれない」とあるが、どういう点で「同じ」なのか、説明しなさい。

問11 傍線⑪「出したばかりの手紙の返事が、もう、待ち遠しくなっていた」とあるが、なずなさんは、花音にどんな手紙を
書いてくれるだろうか。なずなさんに代わって返事を書きなさい。

もないが、節の味方になれないというのは、からかうのと
同じなのかもしれない。

(なずなさんなら、どう思うだろうか?)

あの日のできごとや、自分の気持ちを、正直に手紙につ
づてみた。

なずなさんがどんな人か、よく知らないくせに、手紙を
出せば必ず読んでくれて、いっしょに考えてくれるだろう
という予感がした。花音にとどく手紙のやさしい文面や文
字を見ていると、花音を決して子どもあつかいせず、まじ
めに答えてくれそうな気がするのだ。

(ダメなわたしを、しかるかな? ううん、なずなさんな
ら、きっと、ていねいな言葉でアドバイスしてくれるはず)
⑪出したばかりの手紙の返事が、もう、待ち遠しくなっ
ていた。

二〇一四年度

A

国語 (4)

〔注意〕 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

受験番号

二 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 王座にクンリンする。
- ② 品物をトドける。
- ③ ゴカイをとく。
- ④ カコウセンをたどる。
- ⑤ 写真の大きさをシュウセイする。
- ⑥ 定期的にテンケンする。
- ⑦ 出発日をノばす。
- ⑧ エングキを見る。
- ⑨ この絵はカイシンの作だ。
- ⑩ 虫タイジをする。
- ⑪ カイカツな性格。
- ⑫ ブツギをかもしだす。
- ⑬ お寺の境内。
- ⑭ 木の幹。
- ⑮ 要らない物を処分する。
- ⑯ 純白のドレスを着る。
- ⑰ 母は家事を専らにしている。
- ⑱ 災い転じて福となす。
- ⑲ 大枚をはたく。
- ⑳ 実力を発揮する。

二〇一四年度

A

国語 (5)

解答用紙

二

受験番号

問 5		問 4	問 3	問 2	問 1	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11
A	B										花音様
								</			

A 国語問題

次の通り、訂正いたします。

一枚目本文 下段三十三行目

(誤) そんな声など聞こえないふりをして

←

(正) そんな声など聞こえないふりをして

以上